静岡県博物館協会会報
No.72

静岡の博物館

リニューアルした佐野美術館

静岡県博物館協会

平成25年度　第１回講習会
LED照明の現在

日　時：平成25年10月11日(金)　13：30－17：00
会　場：静岡県立美術館講座室
内　容：第１部：講演
①「LED照明の概要」藤原工氏（株式会社灯工舎代表取締役）
②「損保ジャパン東郷青児美術館へのLED照明の導入」五十嵐卓氏（損保ジャパン東郷青児美術館学芸課長）
第２部：照明関連業者の協力による実演、紹介
協　力：シーシーエス株式会社、株式会社丹青社、タキヤ株式会社(エルコライティング株式会社)、パナソニック株式会社
参加者：33名

環境問題に対応した白熱灯の生産終了、水銀の使用規制などにともなう照明業界の変革によって、美術館•博物館の照明にも変化の波が押し寄せている。そうした状況の中で、ハロゲン灯や蛍光灯に代わる新しい照明として注目され、導入が進みつつあるのがLED照明である。しかし、LED照明は博物館•美術館での使用実績が少なく、統一的な基準が殆どない。この講習会はLED照明の基礎的な知識を学ぶとともに、導入事例の紹介や照明関連業者による実演を通じて、LED照明の現状と課題を知ろうというものである。

藤原工氏にはLED照明の基礎的な知識と現状、課題についてお話いただいた。LED照明には厳密な意味での白色はなく、励起方式や混光方式などによって白色を生み出しており、それぞれの製品で光の特徴が異なる。そのため製品によって美術品の見え方に大きな違いがあり、比較検討が重要とのことであった。分光分布や演色性、美術品の損傷、比較実験のポイントなどについて基礎から実践までお話いただいた。

五十嵐卓氏には損保ジャパン東郷青児美術館へのLED照明の導入事例をご紹介いただいた。検討段階での調査や導入前の製品比較、導入後の実際の使用感など、現場からの貴重な体験を伺った。

講演後はエントランスホールで事前に用意した暗室を使い、照明関連業者の協力のもと各社のLED照明を比較、製品ごとの特徴や見え方の違いを体験した。また、100 Hueテスト（色彩識別力検査）を通じて、個人による色彩識別力の違いも体験的に学んだ。

今回の講習を通じて感じたのは、美術館•博物館用のLED照明は各メーカーで高演色化、軽量化が進みつつあり、まさに進化の途上にあるということである。LED照明を導入するにあたっては、いまだ統一的な基準がないため、導入者が基本的な知識を持ち、その性質を理解する必要がある。そのためには最新の動向を知り、館園同士が情報を交換、共有することも重要となるだろう。

（事業推進グループ・上原近代美術館（公益財団法人上原美術館）　土森智典）

平成25年度　第２回講習会
児童がわくわくするミュージアム

日　時：平成25年12月18日(水)　13：30－17：30
会　場：浜松市博物館　講座室
内　容：第1部：事例報告及び質疑応答
①「資生堂アートハウスの事例報告」丸毛敏行氏（株式会社資生堂 企業文化部 資生堂企業資料館・アートハウス参事）
②「浜松市美術館の事例報告」芹沢俊一氏（浜松市美術館 指導主事）
③「浜松市博物館の事例報告」切畠正雄氏（浜松市博物館 指導主事）

第２部：展覧会「馬を語る」鑑賞　解説 久野正博氏（浜松市博物館 学芸員）
参加者：40名

教育普及活動は、美術館・博物館が担う重要な役割の一つだが、資料を展示するだけに留まらず、その価値や意味をより分かりやすい形で伝える教育普及は、ミュージアム機能に欠かせないものといえる。中でも、児童を対象とするプログラムは、多くの館園にとって重点的に取り組む課題であると認識され、毎年、様々な試みが各館園で実施されている。これら高まるニーズに応えようとする際には、派生する共通の課題、すなわち新たなプログラムの開発と実施、そして継続するための手法、また対象が児童である場合ならではの対応方法が必要となる。今年度の第2回講習会では、3つの館園による児童向け普及プログラムの事例報告を元に、児童教育の場として美術館・博物館運営でどのようなことが出来るのかについて意見交換を行った。

具体的には、資生堂アートハウスから、毎夏開催している「子どものためのワークショップ」について、企画内容や参加者の反応などについて、また、キッズアートプログラム実施半年目の手応えなど、多くの写真や数字を交えて丸毛氏が報告。

また、浜松市美術館は、近年夏休みを中心に子ども向けの展覧会を企画しており、平成25年度は「やなせたかしとアンパンマンのキセキ展」を開催。園児向けギャラリートークの実施状況を中心に、美術館職員によるワークショップ、外部講師による体験講座、学校・学級単位での鑑賞プログラム、教員を対象とした講座など多彩なプログラムについて、芹沢俊一氏が具体的に紹介。様々な参加者の感想も交え参考となることの多い事例報告となった。

さらに浜松市博物館からは「学校移動博物館」や「むかし体験館」について、企画内容や実績について切畠正雄氏から報告がなされた。利用者のモラルをどう引き出すかなど、課題や工夫についても報告があり参考となった。

各報告が終了する毎に簡単な質疑応答が行われ、具体例での応答は各参加者にとって自館での将来の活動を有効に発展させるための参考となり、意義深い講習会となった。

（事業推進グループ・静岡県立美術館　角田新）

平成25年度　第３回講習会
博物館のリニューアル工事　～佐野美術館の事例から学ぶ～

日　時：平成26年１月21日（火）　13：20～17：00
会　場：公益財団法人佐野美術館
参加者：32名
講　師：渡邉妙子氏（佐野美術館　館長）
「戦国アバンギャルドとその昇華　兜KABUTO」展の展示解説・「刀剣取扱い講習」
加藤良晴氏（佐野美術館　事務局長）
「リニューアル工事内容説明」
坪井則子氏（佐野美術館　学芸グループ長）
「新施設運営後の反省点等」
共　催：静岡県学芸員の会
内　容：

近年、施設の老朽化を迎えた美術館・博物館のリニューアル工事が相次いでいる。こうしたリニューアル工事においてはさまざまな局面で多くの選択を迫られるが、そこでの適切な判断のためには、他館での事例等をはじめとする情報収集が不可欠、ということで今回の講習会では、平成24年11月から翌年４月にかけてリニューアル工事を行った佐野美術館の事例を紹介いただいた。

昭和41年開館の佐野美術館は、これまでに空調、展示ケース等の改修を何度か実施してきたが、今回初

めての大規模改修となった。公開承認施設として収蔵庫が小さいことがネックとなっていたことから、当初は収蔵庫の新築のみ予定していたが、従前の収蔵庫を展示室として改装することを機に館の全面リニューアルとなったものである。

新収蔵庫は別棟で新築され、50坪３階建、平成24年５月着工、同年11月竣工。筋交に鉄骨製オイルダンパーを採用し、耐震性に配慮した建屋となっている。基礎のコンクリートにはガス吸着シートを貼ってアルカリガスを吸着させる工法を採用した。内装については、文化庁、東京文化財研究所の指導を仰いだ。

本館は、平成24年11月から翌年４月中旬までの間、休館し大幅に改装した。内装・外装ともそれまでの同館のイメージを一新し、女性向けというコンセプトのもと外観からロビーまでの全体を白色で統一してある。展示室では、展示ケースのウィンドウに透明アクリルボードを採用するなど、館員のほとんどが女性である同館ならではの改善をした他、照明もLEDを採用し、業者からの提案で3000Ｋと4000Ｋの２列とすることで調色・光を可能としながらコストを抑えることに成功した。

改築費用は、約５億円となった。財源としては寄付金を募った他、コレクションの売却益をそれに充てるなどした。

ともすれば事務方、業者主導で進められてしまうことの多い博物館園のリニューアルの際に、学芸員が積極的に関わる必要、責任を改めて感じた。また、渡邉妙子館長による、「戦国アバンギャルドとその昇華　兜KABUTO」展の展示解説、刀剣取扱い講習も実施され、非常に有意義な講習会となった。

（事業推進グループ・沼津市明治史料館　木口亮）

平成25年度　地域セミナー

「地域セミナー」は、加盟館園の事業に対して、静岡県博物館協会が共催し、運営経費の一部を負担するものである。

本年度は下記３件の事業が採択された。

・平野美術館「どうぶつ絵画展」
　平成25（2013）年８月17日（土）～10月14日（月・祝）
・磐田市旧見付学校附磐田文庫「昔の授業体験」
　平成25（2013）年８月１日（木）、８月22日（木）
・富士市立博物館「富士山ネットワーク『富士山ぐるりんコンテスト』およびスタンプラリーにともなうPRイベント」
　平成25（2013）年６月30日（富士山樹空の森）、８月25日（富士山こどもの国）
　ぐるりんコンテスト表彰式　平成25（2013）年10月13日（国立青少年交流の家）

平成17年度から始まったこの事業は、これまでに当協会会員延べ24館園と共に実施されてきた。応募多数の場合、

１．総事業費に対する共催額の割合が低い計画を除外
２．計画内容の具体性が高いものから優先的に共催額を配分
３．新規申請を優先

等々を採択の基準として考えている。

＊事業詳細については静岡県博物館協会紀要第37号（平成26年３月31日発行）掲載の地域セミナー事例報告をご覧ください。

（事務局・静岡県立美術館　角田新）